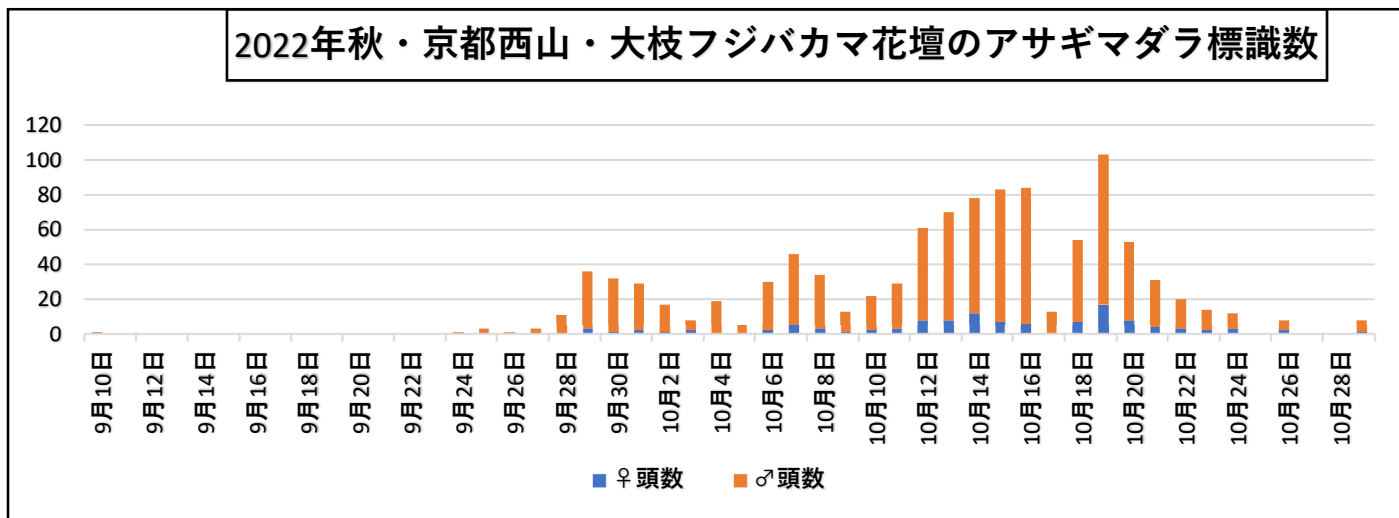


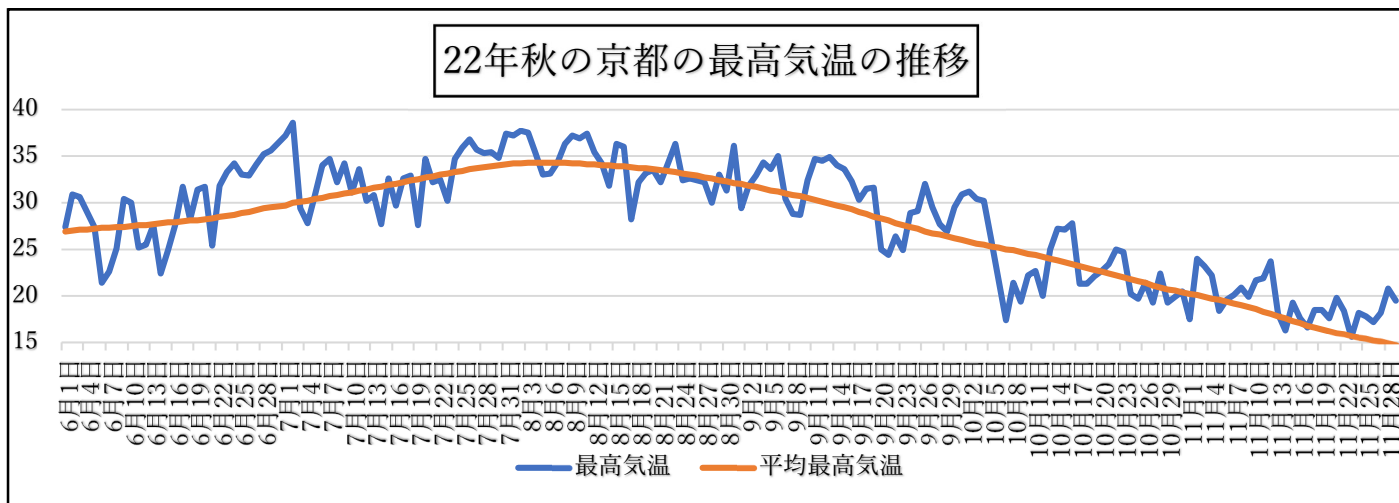
## ⑧ 風とアサギマダラの生活・2022.12.3(pdf)

### 京都西山・大枝のアサギマダラ 2022・②

— この秋は、南下するアサギマダラが非常に少なかった —



1. 標識数は、気温との関係では10月初めの13℃低下から数日遅れてピークを迎え、再び気温が25℃を越えた10月17日には低下している。日本列島のアサギマダラの南下速度は、中部地方 → 近畿地方 → 九州・四国 と、一週間くらいずつタイムラグがあり、移動方向も急激な気温低下がある時には、より南に方向を転じることが多いように思う。



2. 6月から8月の繁殖期には平年値を大幅に上回る著しい高温の日が続き、10月に入ってようやく30℃を切ったが、气象台が出来て以来の非常事態だったらしい。

京都西山・大枝のアサギマダラ 2021 には、『今年のアサギマダラは小型の個体が多いね』と話合っていた矢先だったので、産卵数が多すぎて食草不足になった可能性があると考えています。』と書きましたが、**どうやら高温障害だったようです**。長崎の伊藤雅男さんから次のようなメールが届きました。

『私は職場の長崎バイオパークの温室でマダラチョウ類を30年ほど飼育してきた経験から、アサギマダラをオオゴマダラ、リュウキュウアサギマダラ、スジグロカバマダラと同じ環境の25℃で飼育していると小さな成虫になってしまい、20℃くらいで飼育していると普通の大きさのアサギマダラになるため、同じ部屋でもなるべく温度が低い床などの場所に置いて幼虫期間を長めに飼育していました。また、成虫は長崎の温室（高さ18m、広さ約400㎡で夏場はほぼ外気温と同じ）では梅雨明けくらいの30℃を

越えると動きが鈍くなり繁殖行動をせず、そのままにしていると世代が絶えてしまいました。なお、この温室では夏場で幼虫飼育は出来ませんでした。30℃を超えるとアサギマダラの幼虫たちは死滅してしまいます。ちなみに当然ですがオオゴマダラなどのほかのマダラチョウたちは問題なく繁殖しています。』[asagi:05997]【アサギマダラ情報】

「今年はなぜアサギマダラが少ないか」という問いかけに対し、「今年はい年の5~6倍飛来した」という情報が寄せられました。『今年状況(特に飛来個体数)については、春はさて置き、夏以降、私の聞いていた範囲では、おしなべて"少ない"、"激減"との情報で、私自身の観察や中国地方では去年(大変多かった)の1/10程度とお話も聞いていましたので、河野さんの「多かった年の5-6倍」と言う観察は、将に晴天の霹靂の感があります。単純に推測しますと、"全体の個体数については例年並みであったが、移動ルートに多少異変があった"と言う事も有り得るかなと思った次第です。今朝の喜界島での福島様のお話では、「喜界島のアサギマダラは、出だしが低調で心配していましたが、11月に入り例年並みとなってきました」との事で、やはり全体としては例年並みなのかも知れません。

こうなると、確かに全国での状況を皆さんに語って頂くのがまず最初の作業となりますね。

皆様、各地の概要報告をよろしくお祈りします!!

本田計一

この秋、京都西山・大枝フジバカマ花壇での捕獲数は919頭でした。内113頭(12.3%)がメスで、内62頭(54.9%)は交尾済みでした。昨年の秋の総捕獲数は670頭でしたから、37.2%増えたことにはなりますが、フジバカマ花壇の栽培面積が倍になっているのと、私の体調が悪くて捕獲率が10~20%と取り逃がしが多かったというハンディもありました。

メスの比率が高い日は、気温が平均気温を下回る日に多く見られます。水尾8年間の定点調査では、オスの比率は8年間平均で97.7%であり、メスが少なかった2013年は99.5%がオスでした。

この違いはどこから来るのでしょうか。多分オスはPAを感知できる嗅覚を持ち、太陽の熱で温められた空気が斜面を這い上がる斜面上昇風の中に、帯のようにフジバカマの匂いが運ばれます。オスはその匂い(PA)を辿って風上、すなわち山麓のフジバカマ花壇にたどり着くものと思われます。余談ですが、初めてフジバカマを訪花するアサギマダラはその色も形も知らないらしく、通り過ぎてしまっただけの匂いが無いのに気が付き、戻って来る個体もあります。このようなことは朝早くに起こります。訪花しているアサギマダラが増えてくると、その姿を見てPAを発散させるフジバカマにたどり着くことになりませんが、メスも気温の低い日には移動高度も低くなるので訪花する仲間が見つかるのと訪花しやすくなります。オスもメスも仲間の存在には敏感なようですね。

多くのフジバカマ花壇で白絹病の発生に悩んでいるようですが、ここ、大枝のフジバカマ花壇にも5株ほど発生しました。とりあえず石灰を撒く程度で来年の様子を見ようと思っています。

